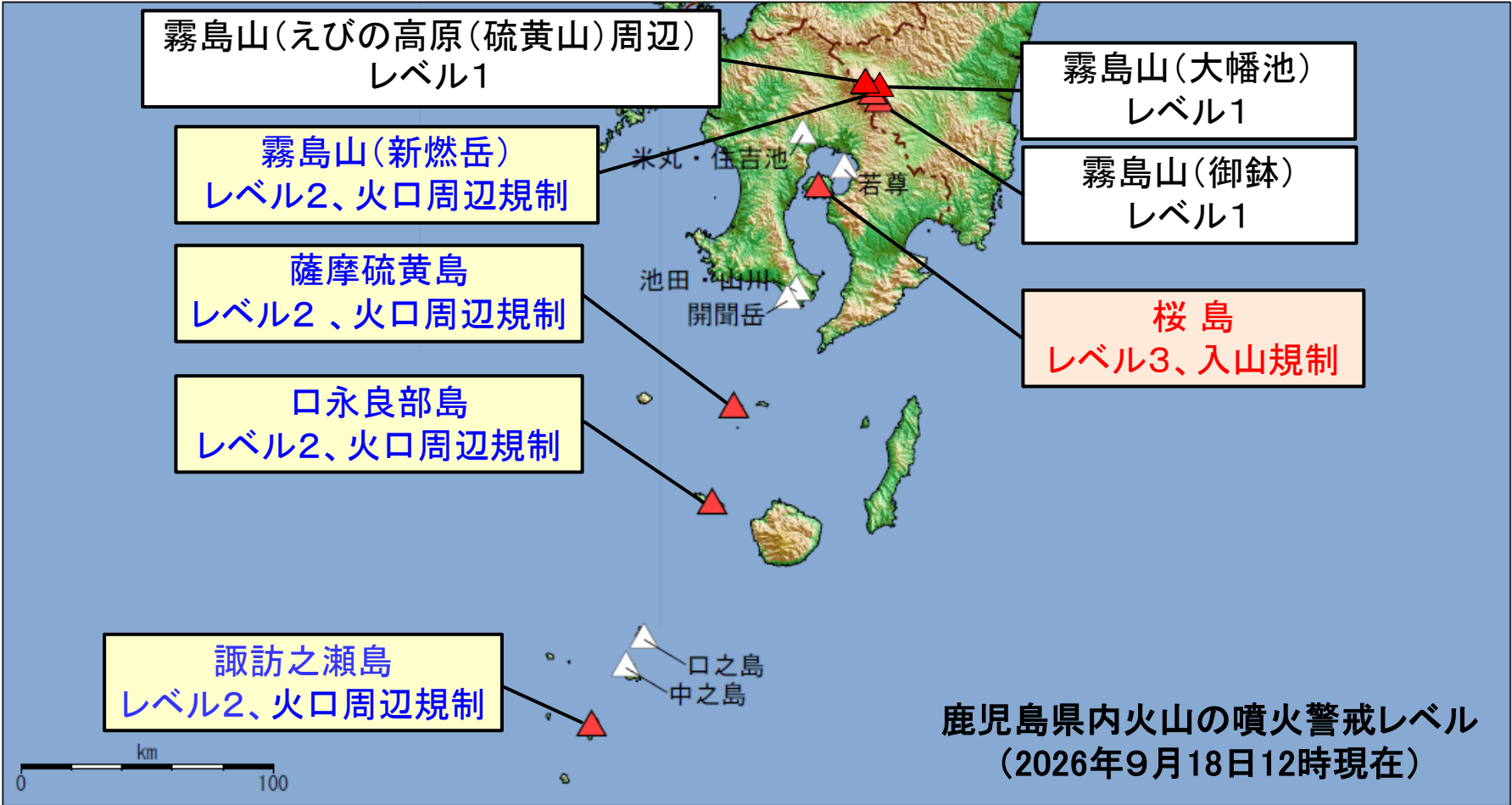


鹿児島県の火山活動概況

2026年8月～9月16日

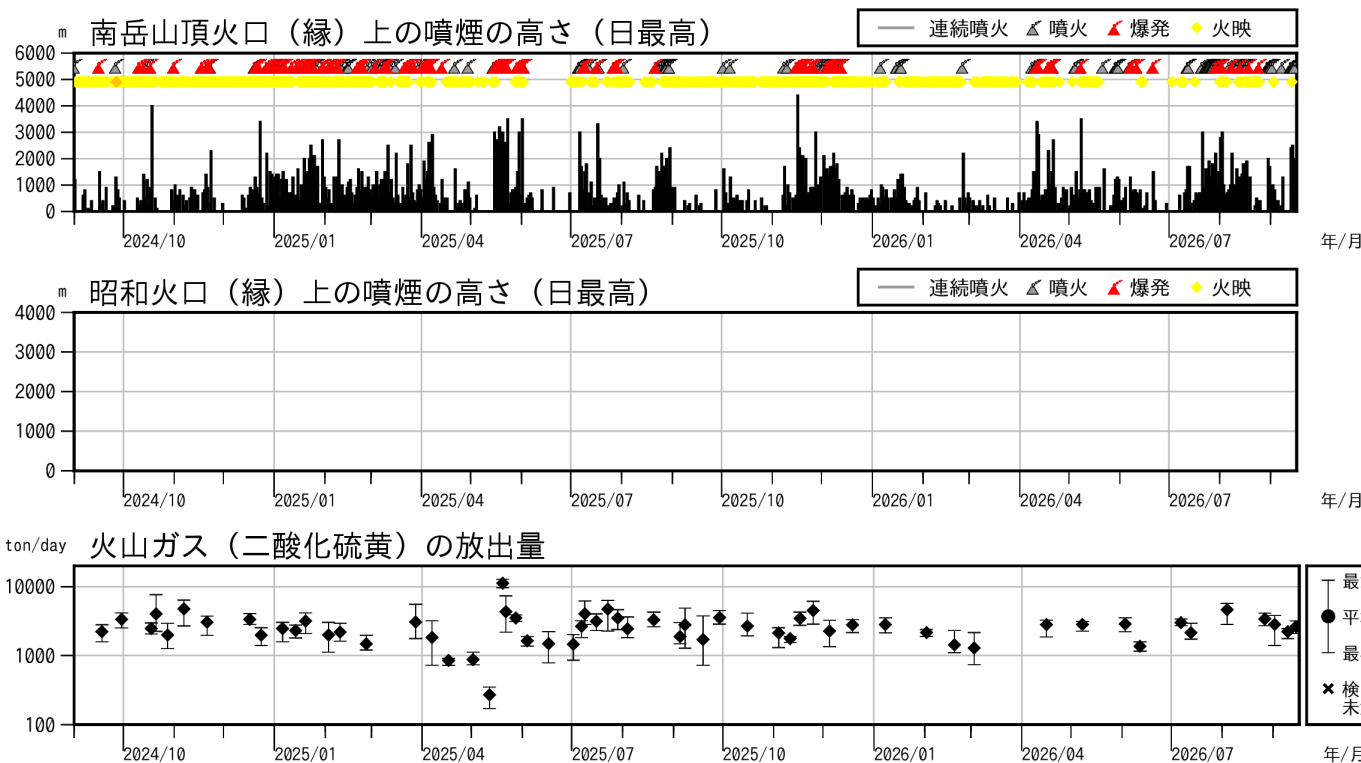


桜島 噴火警戒レベル3（入山規制）

警戒範囲：火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

8月以降の主な状況

活動評価	始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部にマグマが長期にわたり蓄積した状態であり、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態であることから、今後も噴火活動が継続すると考えられる
噴火活動	[南岳山頂火口] 噴火回数 9月(16日まで):21回(うち爆発:0回) 8月:噴火61回(うち爆発:7回) 8月2日23時34分の爆発:噴煙は火口縁上3,000m、大きな噴石は6合目まで飛散 [昭和火口]（ごく小規模含め）噴火は発生せず
火山ガス	二酸化硫黄の放出量は1日あたり平均2,200～4,600トンと多い状態



桜島 噴煙・火山ガス活動推移(2024年9月～2026年9月16日)

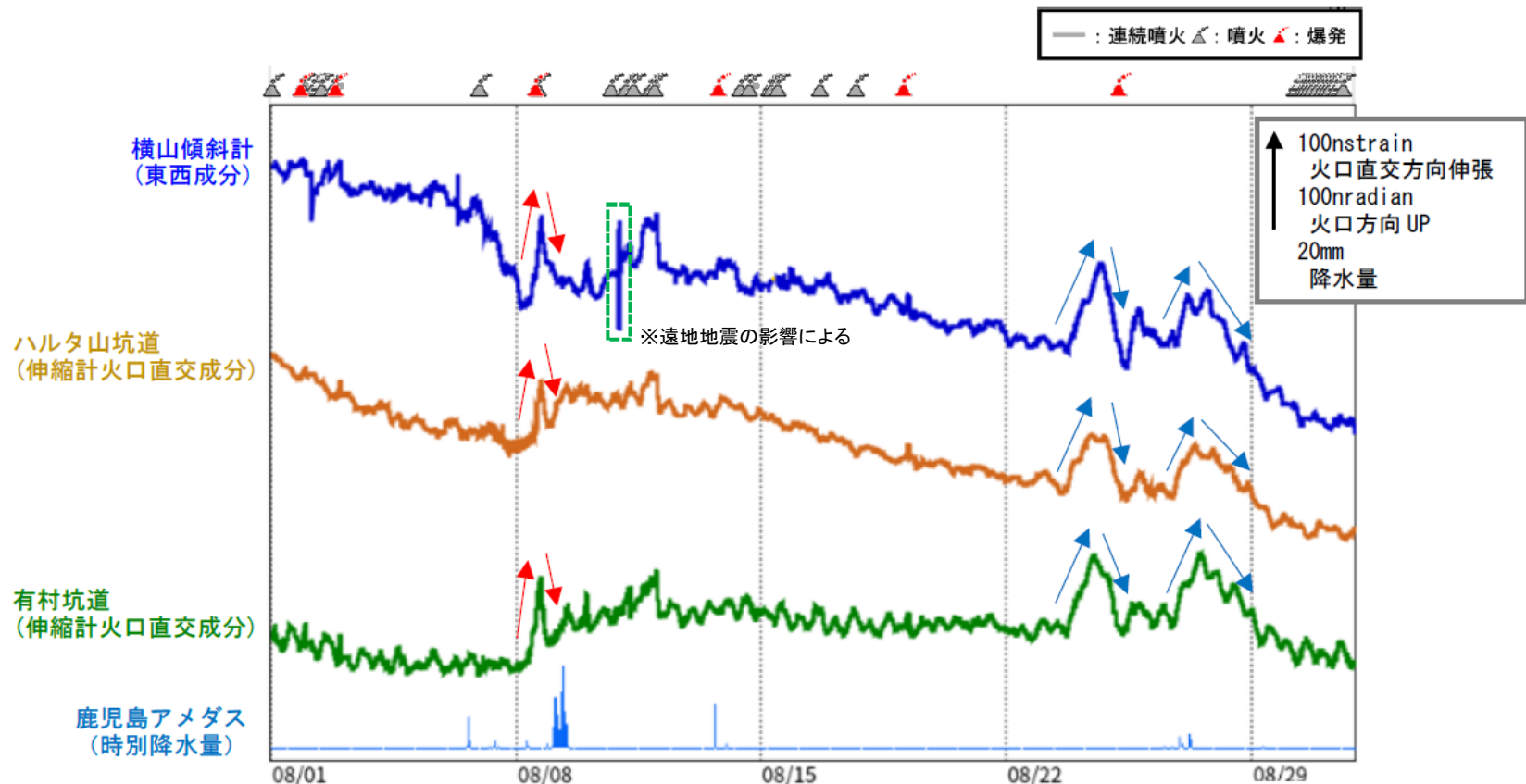
桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

8月以降の主な状況

傾斜・伸縮

桜島島内の傾斜計及び伸縮計では、8月8日に山体の隆起(膨張)を示す地殻変動が観測されたが、同日の噴火活動に伴い解消。8月23~25日、26~28日にも山体の膨張(隆起)を観測。



桜島 傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況 (2022年8月1日~8月31日)

※各観測点のデータは潮汐補正を行っている。

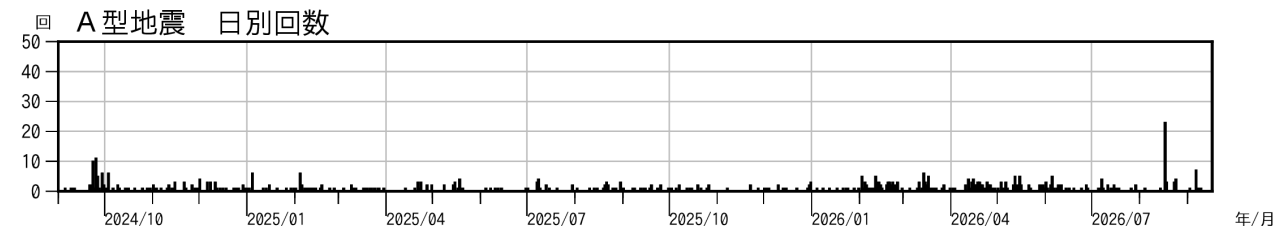
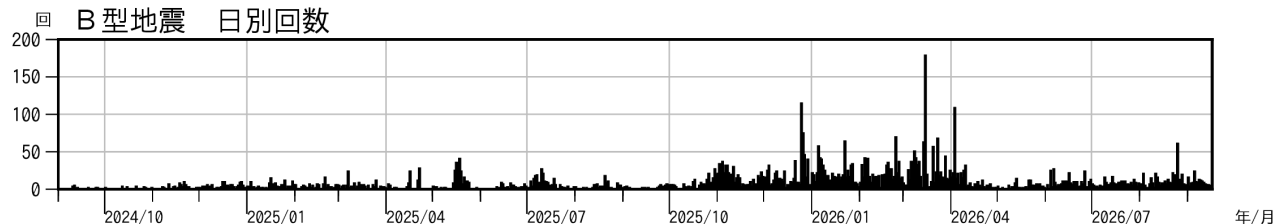
※図の作成には、京都大学のハルタ山坑道、高免坑道の観測データを使用している。

※あみだ川観測点は山頂火口域のほぼ北に位置していることから、傾斜計南北成分の南側が上がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示している

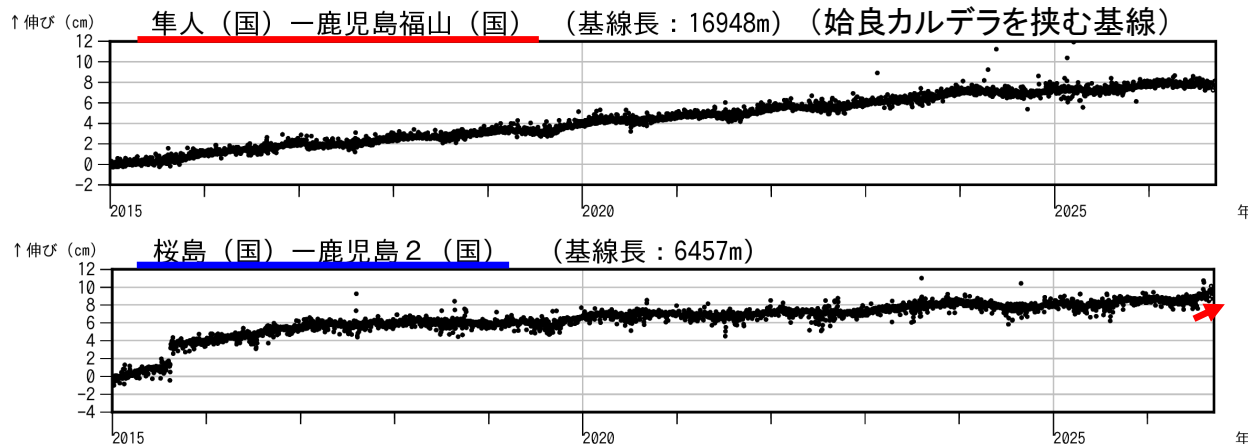
桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

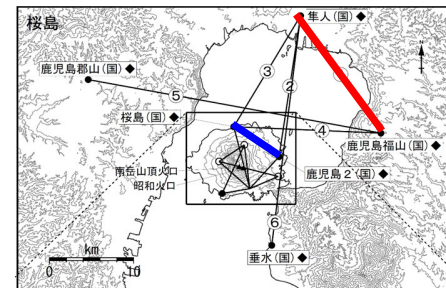
	8月以降の主な状況
震動現象	火山性地震は8月25日に一時的にやや多い状態となったが、期間を通して概ね少ない状態で経過
G N S S	長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる 桜島島内の一部の基線で2026年5月頃から山体膨張に伴うとみられるわずかな伸びがみられる



桜島 地震活動推移(2024年9月～2026年9月16日)



桜島 GNSS基線長変化(2015年1月～2026年9月16日)

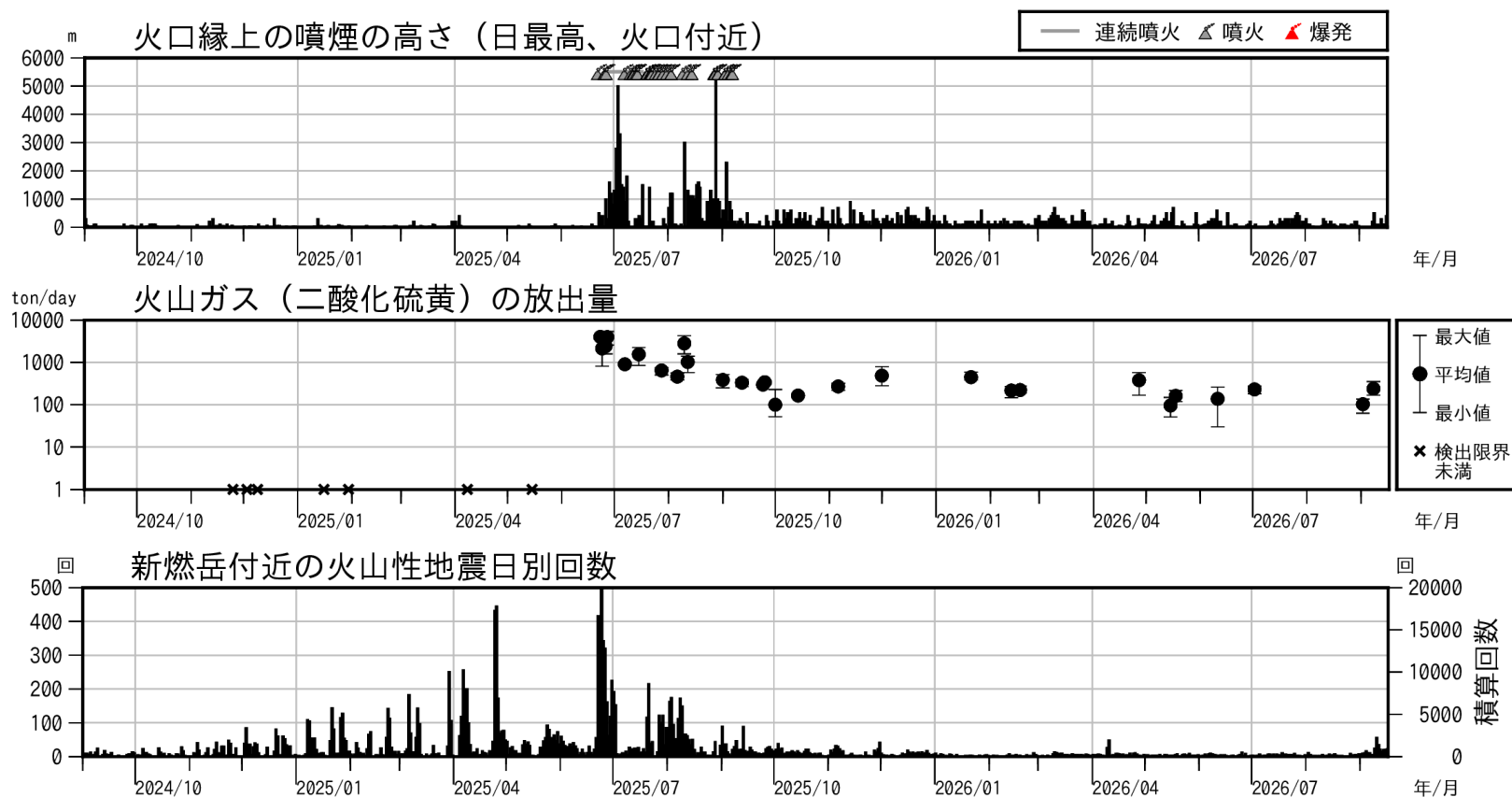


新燃岳 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2025年10月17日11時00分発表)

8月以降の主な状況

活動評価	火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり数百トンの状態が継続、火山活動は高まった状態で経過
噴火活動	2025年9月8日以降、噴火は観測されていない
火山ガス	火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり平均100~200トンとやや多い状態
震動現象	火口直下を震源とする火山性地震は9月上旬以降やや増加 9月11日~13日にかけて継続時間の長い火山性微動を観測



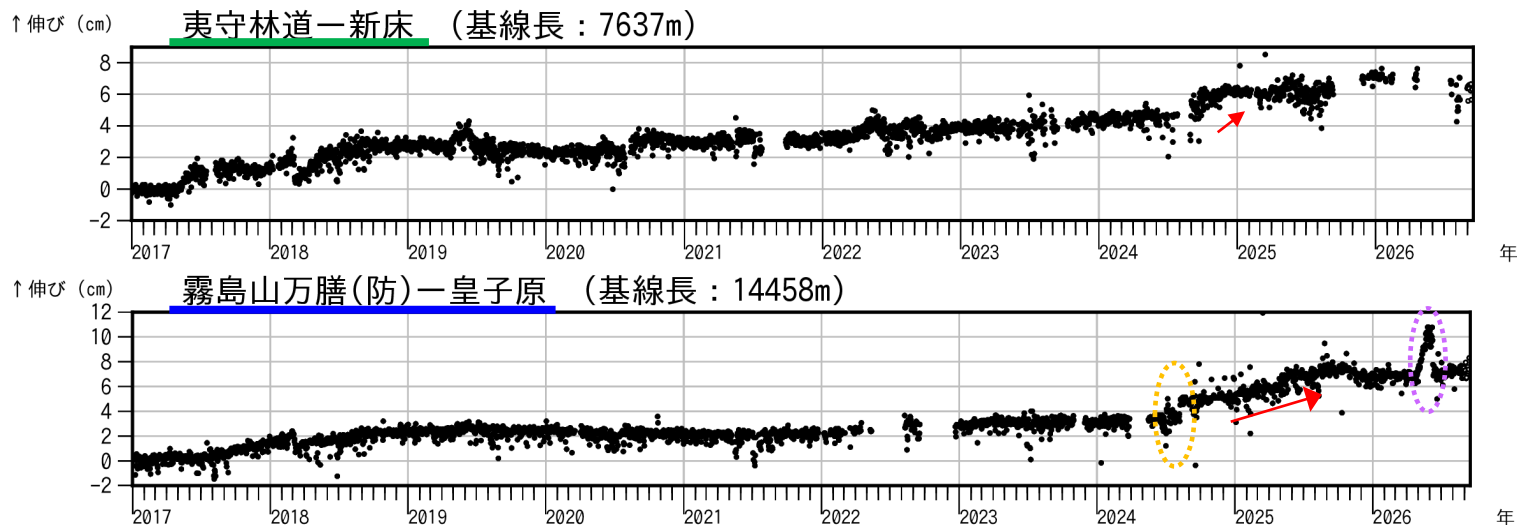
新燃岳 火山活動経過図(2024年9月~2026年9月16日)

新燃岳 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2025年10月17日11時00分発表)

8月以降の主な状況

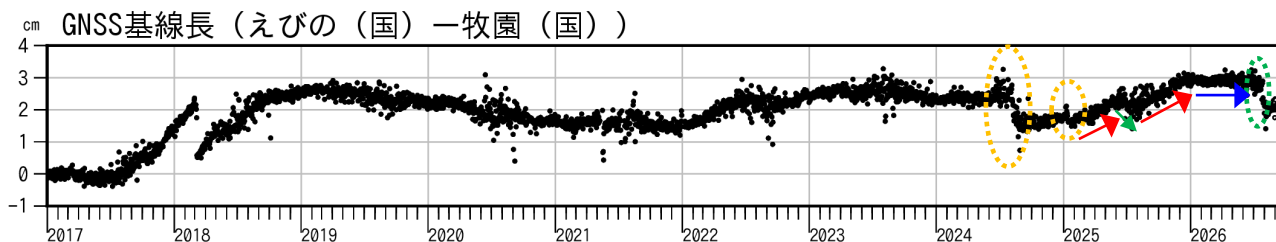
GNSS 霧島山を挟む一部の基線で、霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが、2025年12月中旬頃からは停滞。同基線では2025年7月上旬に噴火活動に対応すると考えられるわずかな縮みがみられた(緑矢印)。新燃岳付近の地下における膨張を示すと考えられる基線の伸びは、2025年7月以降は認められない。



新燃岳付近 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月~2026年9月16日)

※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す

※紫色の破線は皇子原観測点周囲の環境の変化に伴う影響と考えられる



霧島山 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月~2026年9月16日)

※橙色の破線は2024年8月8日、2025年1月13日の日向灘の地震による変動を示す

※緑色の破線は令和8年熊本地震(2026年7月28日)による変動を示す

